

県産材の 利用推進に表彰状

益城中央小校舎に
県森林組合連合会賞



県産材をふんだんに使った益城中央小の校舎

県産材をふんだんに使った大型施設などを表彰する「第16回熊本県木材利用大型施設コンクール」の審査がこのほど行われ、昨年完成した益城中央小学校校舎が「熊本県森林組合連合会賞」を受賞しました（熊本県など5団体主催）。

このコンクールは、県産材を利用する優れた大型木造施設などを表彰することにより、県民の県産材利用に対する意識を高め、需要の拡大を図ることを目的としています。条件としては、延べ床面積が約300㎡以上の県産材を利用した施設で、県民に広く公開が可能な施設であることが挙げられています。

表彰式は2月21日、県庁で施設の代表者など5人が出席して行われ、熊本県森林組合連合会の松村昭会長から住永町長へ表彰状が手渡されました。



表彰状を受け取る住永町長

晴れて長寿を祝う

100歳を迎えた3人を巡回表彰

1月から2月にかけて、めでたく100歳を迎えた3人に対し、住永町長から町の敬老祝い金と表彰状が贈られました。表彰を受けたのは、大平アヤコさん（櫛島）、奥村ハツメさん（下陳）、松嶋ハツエさん（寺中）の3人です。

大平さんは、明治44年1月20日生まれ。三男の工さん一家と4世代同居のにぎやかな暮らしをしていますが、3年ほど前から町外の病院に入院しています。デイサービスで始めた書道が趣味という大平さんは、ひ孫さんが見舞いにくると非常に喜ばれ、一番の薬となるそうです。

農業一筋の働き者で、94歳まで草むしりも頑張っていたという奥村さんは、明治44年1月26日生まれ。2年ほど前から町内の福祉施設に入所しています。誕生日は家族や施設のスタッフや大勢の仲間にもまれる中、



家族のお祝いを受ける奥村さん（前列左から2番目）

住永町長のお祝いの言葉に深くうなずいていました。

松嶋さんは、明治44年2月1日生まれ。若いころは、米や野菜を作ったりして働き者でしたが、5年ほど前からは介護が必要となり、自宅で家族とともに暮らしています。2月1日は、3人の娘さんのほか訪問した看護師などに囲まれる中、住永町長が表彰。「まだまだ長生きしてください」という励ましに、「はい」と、はつきりとした返事を返していました。